

## 米軍普天間・嘉手納基地

# 戦闘機の離着陸増

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）と嘉手納基地（同嘉手納町など）で、2023年の戦闘機の離着陸数が対前年比で増加したことが防衛省沖縄防衛局の調査で分かりました。普天間基地は150回で前年比2・3倍、嘉手納基地は1万8057回で同1・3倍に増加。基地周辺では戦闘機の飛来で騒音被害を引き起こす恐れのある100回を超える騒音が常態化しています。

普天間基地での全機種の離着陸回数は、1万3612回が外来機でした。日本では前年より約15%減少。この防止協定で米軍機の飛行が制

限されている夜間・早朝（午後10時～翌午前6時）の離着陸回数は441回で、前年より1・4回増加しました。

嘉手納基地での全機種の離着陸回数は5万1127回となり、前年より約25%増加し、19年以来最多となりました。夜間・早朝の離着陸回数も1623回と高水準が続いている。

イガ屋久島に墜落した後、同基地では主力機F-35戦闘機の退役に伴い、23年からF-35Aステルス戦闘機やF-15E戦闘機などが米本土からロードショーテーション（交代）配備されています。戦闘機による離着

音が常態化。同町屋久島では23年4月で騒音110番には、「ジ

エット戦闘機の音は人間が我慢できる範囲ではない」「テレビの音も聞こえない」「騒音で寝 sveきれない」と苦情

が相次いでいます。

音数は全体の約4分の1を

占めています。

嘉手納町の調査によると、

地被害110番には、「ジエット戦闘機の音は人間が我慢できる範囲ではない」「テレビの音も聞こえない」「騒音で寝 sveきれない」と苦情が相次いでいます。

